

未来



郵政産業ユニオン
PIWD

全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4568
25年8月5日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

声を上げよう 反核・平和と

おはようございます。

人類の未来を予測するNHK・Eテレの「八十億人、人類繁栄の秘密」を見た。人類が世界に広がる前、フリカの人類は多様な人種がいたが、超氷河期に絶滅危惧種という人口二千人にまで激減したことがあった。そこからホモサピエンス(知恵ある人)の種族のみが生き残り、今があるという。

その原因は、彼らが火を発見し、食のために魚を求めて世界中へ移動したことからいまがあるという。その過程で仮に他の民族と出会って

もいきなり殺し合いをせず、協調性を持ったものが生き残った、という説だ。

仮説の一。犬は狼から分かれ、人類と共存するもの(家畜化)が生き残り、いま狼は絶滅危惧種にある。これは特異なことらしい。そこで狼をつがいや飼育し、おとなしい子供たち同士を交雑させると、十五代で人懐っこい狼が育つという。当然、人に抱かれる狼だ。犬と狼の違いは協調性だという。生物繁栄の基礎だろう。

仮説の二。モルモットのいくつものつがいを個室に別々に入れ、十分な部屋の広さと食料を与え、個体数は順調に増えるが、しかし八〇〇匹を超えるあたりから集団に格差が生まれ、一部が暴力的となり、力が強いものが食



ルモットは絶滅する。先の狼の十五代で狼の家畜化が始まるという世代の偶然の一致は、興味深い数字だ。

物を独占し、広い部屋で悠々と暮らし、弱いものは小さい部屋に閉じこもり、出産や子育てを忌避し、個体数が減り始める。そして一八〇〇日を超えるころに集団は絶滅する。この実験を三五回くり返したが、みな同じ結果だったという。怖い話である。

およそ三千万年前にアフリカを出た人類の祖先は、この協調性を今も持つ。例えば大都会の満員電車の中で外国人と出会っても、敵だ！としていきなり殺しあわない。人類の知恵と協調性だ。これで二千人から八〇億人になり、そう遠くないときに百億を越えると予測される人類の過去と未来だ。

モルモットはおよそ五、一〇年間生きる。百日で二世が生まれ、一年で三世、五年で十五世となるが、そこで実験をしたモルモットは絶滅する。先の狼の十五代で狼の家畜化が始まるという世代の偶然の一致は、興味深い数字だ。

長崎の八・八平和集会で講演をされる荒木賢三さんも話されると思うが、被爆者の未来はどうなるのか。また二世や三世はどうなるのか。

ノーベル平和賞受賞式に参加し、講演もされた朝長方左男・元長崎大学教授で被爆者手帳友の会の代表は、自らも被爆者であるが、放射能が被爆後の人体に与える影響の実態研究を続けられている。理由は、なぜ、数十年後に突然症状が現れるのかがあるからだ。

また昨年は被爆者団体の被団協にノーベル平和賞が授与された。世界が核の脅威にさらされているいま、人類史を代表する平和機関が、核兵器廃絶の訴えに耳を貸したことは、被爆都市・長崎の市民として、また身内に被爆者二世、三世を持つ一人として、うれしい限りだ。



国は二世、三世には放射能被害の影響はないという立場だが、先生は「あるとも言えないし、ないとも言えない」と言われている。遺伝子への影響は三代では調べられない、ともいえるが、では、先の狼やモルモットの十五代後(約四百年後?)の現象はどうつながるのだろうか。

いま被爆八〇年に、一人の被爆者から一人の配偶者、三人の子供、六人の孫へと被爆関連者が増えていく。体内に入った放射能は遺伝子として残り、どんなその保有者は拡大していく。放射能をもつ人は必ず日本全国の人々へと広がっていくし、世界へと広がっていくし、減りはないからだ。

力が強い国が核兵器を独占し、支配している。人類の未来を示すモルモットの絶

いま世界は自国ファーストが広がり、多様性や協調性が否定されていく。無論、富の格差はいままでもない。八十億人の一握りの人が富の多くを独占し、大半は貧困と格差にある。そのなか、いわゆる先進国では人口減が急速に進み、移民なしには労働と経済が回らない時代へと入っている。

◆ Eテレの番組はネット検索ができます。ぜひご覧ください。

◆ 八・八平和を考える長崎集会に参加を。八月八日(金)一八時から。魚の町、市民会館アマランスで。

無論、それ以前にも核兵器による第二次世界大戦が、その引き金ともなりうる。大国が公然と原発へ攻撃をかけ、世界中に放射能をまき散らしているし、仮に逆に別の大国が、「自国防衛のため」として、原発を再度投下した場合、世界は泥沼化する。

いまがその危機の淵にある。ホモサピエンス知恵ある人と後世の人が名付けた人種も、核兵器でその世代を終わらせるのかもしれない。核兵器の発射ボタンは、この協調性や多様性のない独裁者にあることを思い、私たちは力の限りたかひ続けなくてはならない。

被爆都市・長崎の市民は、原爆被爆関連者として、いまその存在感を大きな声で示す責任もまたある。声を上げよう。反核平和と。

滅説に見るなら、人類はあるとき、絶滅危惧種的な人口減へと入る。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。めいめい、均等待遇、ななくさ差別！ ユニオンは労基裁判に勝利するまで！

